

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	佐賀市立巨勢小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え行動できる児童、あたり前のことをきちんとする児童の育成をめざして、職員の共通理解を図り、知・徳・体の面から取組や指導を積み重ねてきた。校内研究や生徒指導など成果が現れているところもあるが、取組や指導の継続を図り、重点目標の達成をめざしたい。 ・特別支援学級にも、普通学級にも個別の支援が必要な児童が多くいる。生活支援員や特別支援学級支援員の支援はあるが、特別支援教育に関する教員の専門性の向上は、学校全体の教育活動の充実に欠かせない課題である。また、今年度、SCやSSW、病院、発達支援センター等関係機関との連携を進めてきたが、今後も連携を図り、個に応じたよりよい支援を充実させていきたい。 ・まちづくり協議会をはじめとした地域の団体に体験活動や行事で多くの支援をいただいた。中学校や幼稚園・保育園とのつながりを含め、学校内でも異学年の交流の機会を大事にし、児童の豊かな心情や社会性の育成を図ってきたい。

2 学校教育目標	<p>「笑顔かがやく子供」の育成 ～「本気で」「元気に」「根気よく」取り組むよさに気づき、行動する子供～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分で考え行動できる児童を育てる ② 「あたり前のことをきちんとする(凡事徹底)」指導の継続・推進・深化 ③ 異学年活動や地域、幼保小中連携など、つながりの中で子供を育てる体制、体験活動の充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価		主な担当者			
(1)共通評価項目			中間評価		最終評価					
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員で共通理解と共通実践に取り組む。 ○ICT(一人一台端末等)の活用を継続して進め、分かりやすい授業に向けた取組を実施し、児童の学びへの意欲と自己肯定感の向上を図る。 ○各学力テスト等の分析を行い、日々の実践につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業中、じぶんで考えて問題をとり、集中してがんばりすることができたか。」「授業中に友だちと意見を出し合い、話し合っ問題を解決することができたか。」「」に対する児童の肯定的な回答が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末等を授業内で活用する。 ・「振り返り」を各教科で行い、自己評価を肯定的に促させる。 ・学習内容によって、自分で考えて集中して問題を解かせたり、友達との話し合いを行わせたりするなど、分かりやすい授業実践の工夫に努める。 ・各テスト等の結果をもとに、宿題(課題)の出し方や内容を工夫したり、児童が主体的に学習に取り組めるような環境を整えたりすることで、学習内容の定着を図る。 						教務主任、研究主任	
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○「友達と仲良くできた」と回答する児童が80%以上。 ○「学校は楽しい」と回答する児童が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習や人権教室などを通して、自他のよさに気付け、尊重し合う心を育てる。 ・教科担当制で授業を行ったり、縦割りグループなどの活動を行ったり、給食指導に担任以外の職員も入るなどして複数の職員が児童に関わりを持ち、よさを見付け称賛する。 						道徳担当 人権・同和教育担当	
	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「困った時に先生や友達に相談できた」と答えた児童が90%以上。 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていないと回答した教員100%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめのきもちカード」「あのねタイム」等を使い、児童の悩みに寄り添い、困り感を早期に発見、解決していくようにする。 ・いじめの対応についての研修や情報共有を月1回以上行う。 						教育相談担当 心づくり部	
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が児童のよさや頑張りを伝え、児童同士がお互いに認め合える学級づくりを行う。 ・キャリアパスポートを学期に1回以上活用し、自らの夢や目標を考えさせる。 ・夢や目標をもつことの大切さを考えるような授業を設定する。 						特活担当 たくまじ部	
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や異学年交流などのつながりの中で、子供を育てる体制、体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校行事等で異学年交流をすることがたのしみである」と回答した児童90%以上。 ○「自分は周りから認められている」と回答した児童80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回程度の縦割り遊び、1年生を迎える会や春の遠足、運動会など、縦割り活動を設定し、異学年交流の場を設ける。 ・「ぼかぼかの木」などの活動や掲示をする。 ・互いの意見を交流し、認め合えるような活動を授業の中に取り入れる。 						特活担当 たくまじ部	
	<ul style="list-style-type: none"> ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ①週に3回以上、外に出て遊んだり、スポーツをしたりした児童が80%以上 ○朝ごはんを食べた児童が90%以上 はみがきを1日3回以上した児童70%以上 ③児童の交通事故を0(ゼロ)にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動委員会を中心に全校でスポーツチャレンジに取り組むことを企画し、運動に親しむことができるようにする。 ・健康委員会の活動や保健便り、保健指導等を通して、望ましい生活習慣の定着を目指す。月1回の「いまの気持ちカード」や学期1回の健康生活チェックで児童の実態を把握し、指導に活かす。 ・交通安全教室や登下校時の安全についての指導を行う。 						体育担当 たくまじ部	
○安全意識の向上		<ul style="list-style-type: none"> ○様々な危機(アレルギー、熱中症、食中毒、けが予防等)に対する管理意識を高めた教員が100%を継続する。 ○防災避難訓練を行い、危機管理意識を高めた教員が100%を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で起こりうる様々な危機に対応するため、職員研修を行う。その上で、月1回危機管理に関して情報を共有し、改善して対応する。 ・防災避難訓練を年に3回以上開く。 ・職員向けの防災教育研修を行う。 ・児童が安全に過ごせるように登下校の見守り・学校環境の安全管理を月1回行う。 						安全担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜日の終業前10分間を「とのえタイム」とし、勤務管理・出退勤システムや机上の整理、次週の見通しを持つ等、勤務を円滑に行うための時間を設定する。 ・金曜日を「定時退勤日」とし、定時には職員間で声を掛け合い退勤するよう雰囲気づくりを行う。 ・業務改善を推進し、職員研修を計画的・効率的に実施する等、年次休暇を取得しやすい環境を整える。 						教頭、事務	
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○「視覚化と見通しを持たせることを意識して指導した」と回答した教員が85%以上 ○「個に応じた対応(学習・行動)ができた」と回答した教員が85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員へ向けて特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・配慮が必要な児童についてのケース会議の開催、関係者間での情報共有をする。 ・月2回、支援学級担任でミーティングを行い、ミニ研修や情報の共有を行う。 						特別支援教育担当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
○生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒に定着させたい生活目標を達成するための指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活目標を達成することができたと回答した児童が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校の集いで生活目標について指導し、各学級で具体的な目標を作る。 ・生活目標について朝の会で確認し、帰りの取り扱いで児童に振り返りをさせる。適宜、生活目標やきまりについて放送し、児童の意識変容を促す。 							生徒指導、心づくり部

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---